



日本歯科大学 (新潟病院
医科病院)

Vol.21
2013.10.1

アイヴィ通信

～皆様の口腔と全身の健康を目指して～

地域の皆様のご要望に応えられる 大学病院を目指して

日本歯科大学新潟病院 副院長
黒川 裕臣



本年4月から、新潟病院副院長を務めることになりました黒川です。

山口病院長の目指す、来院される皆様の立場にたって考え、歯・顎・口腔だけでなく全身的な観点から疾病治療や健康維持・増進が具現化するよう、微力ながら頑張りますのでよろしくお願いいたします。

皆様は、よく噛むことで8大効用がある標語をご存じでしょうか。

それは「**卑弥呼(ひみこ)の歯はいーぜ**」です。弥生時代の人々は現在人より噛む回数何倍も多かったと言われております。それでは、標語の意味を説明いたします。①肥満を防ぐ②味覚の発達③言葉の発音がはっきり④脳の発達⑤歯の病気を防ぐ(よく噛むと唾液がたくさん出て口の中をきれいにします。この唾液の働きが、虫歯になりかかった歯の表面をもとに戻したり、細菌感染を防いだりして、虫歯や歯周病を防ぐのです)⑥がんを防ぐ⑦胃腸の働きを促進する⑧全身の体力向上と全力投球(ここ一番、力が必要なとき、ぐっと力を入れて噛みしめたいときに、丈夫な歯がなければ力が出ません。よく噛んで歯を食いしばることで、力がわき、日常生活への自信も生まれます)よく噛む目安は30回と言われています。最初はなかなか大変ですが、いつまでもおいしいものを食べ続けるための元気な歯を維持するために、日常生活にぜひ取り入れていただければと思います。

今後とも病院職員一丸となって努力してまいりますので、よろしくお願い申し上げます。



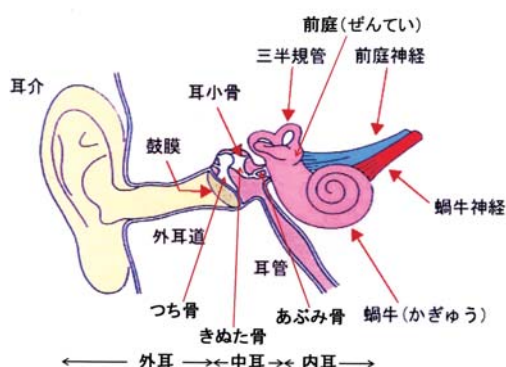
耳の仕組み・働き・病気

●日本歯科大学医科病院 病院長
耳鼻咽喉科 教授

五十嵐文雄



●図1：耳の仕組み。外耳、中耳、内耳に分かれる。



耳は外耳、中耳、内耳に分かれます(図1)。ここでは、耳の仕組みと働き、耳の代表的な病気について簡単に説明します。

◆耳の仕組みと働き

〈外耳〉：耳介と外耳道に分かれます。外耳道には音を空気の振動として伝える働きがあります。

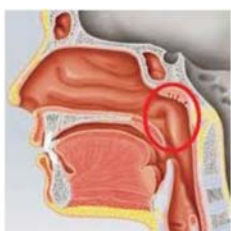
〈中耳〉：鼓膜の奥には中耳腔とよばれる空洞があります。外耳道から空気の振動として伝わった音のエネルギーは鼓膜を振動させ、その振動は中耳腔内の耳小骨に伝わります。耳小骨は、つち骨、きぬた骨、あぶみ骨の3個あり、てこの作用で外耳道から伝わった音のエネルギーを増幅して、効率よく内耳に伝えます。耳管は中耳腔と鼻の奥をつなぐ管で、外界との圧調節(換気)、中耳腔内に貯留した液体の排泄が主な働きです(図2)。高い山に登った時、耳が塞がった感じがすることがあります。この時、唾を飲み込むと塞がった感じが治ります。これは唾を飲む動作で耳管が開き、外界との圧調節が行われるためです。

〈内耳〉：内耳には蝸牛、前庭(ぜんてい)、三半規管があります。あぶみ骨から伝わった音のエネルギーは蝸牛内の神経を刺激し、その刺激は蝸牛神経から脳に伝わり音として認識されます。一方、前庭と三半規管は体の位置、動きを認識します。その情報は前庭神経を介して脳に伝わり、無意識のうちに体のバランスをとることになります。蝸牛の機能が障害されると難聴が、前庭、三半規管が障害されるとめまいが出現します。蝸牛神経と前庭神経をまとめて聴神経とよびます。

●図2



a：正常左鼓膜



b：鼻の奥にある耳管の開口部(赤い円内)



c：耳管開口部(内視鏡での観察)。



d：中耳腔からの液体排泄。

◆代表的な病気

〈外耳道炎〉

外耳道の皮膚炎です。原因として最も多いものは耳掃除のやりすぎです。頻回に掃除をしているうちに耳の痒みが痛みが変わり、ついには耳だれが出てきます。耳掃除のやり過ぎは禁物です。

〈急性中耳炎〉(図3-a)

風邪をひいた時、鼻やのどの炎症が耳管を介して中耳腔に波及し、化膿性炎症を生じます。発熱、耳の痛みが主な症状で、鼓膜が破れると耳だれが出てきます。薬での治療が主体ですが、場合によっては鼓膜を切開して膿を排泄させなければならない場合もあります。

〈滲出性中耳炎〉(図3-b)

中耳腔に液体が貯留する病気で、耳管の機能が悪いなど、中耳腔の換気がうまく行かない場合に発症します。幼小児では急性中耳炎との関連が深く、急性中耳炎が完全に治りきらない状態とも言えます。軽い難聴や耳がつまる感じが主な症状で、幼小児ではご家族が難聴に気づく場合が少なくありません。

〈真珠腫性中耳炎〉

鼓膜の一部が中耳腔側に侵入、強い炎症を起こし、場合によっては内耳にも障害が及ぶ病気で、多くの場合手術が必要となります。

〈突発性難聴〉

突然に発症する難聴で、蝸牛の障害によるものです。原因は不明です。治療は薬による治療と安静で、早期の治療開始が重要です。

〈メニエール病〉

ぐるぐると回転するようなめまいと難聴、耳鳴りを繰り返す病気で、内耳の中にあるリンパ液が溜まり過ぎて発症します。治療は突発性難聴同様に薬物治療と安静です。

〈良性発作性頭位めまい症〉

頭をある特定の位置にするとぐるぐると回転するようなめまいが起きるもので、目が覚めた時、横を向いたら急に回り出したとの訴えが多いようです。前庭の中にある耳石(じせき)がはがれて三半規管を刺激し、発症するといわれております(図4)。治療には薬物療法の他に運動療法があります。

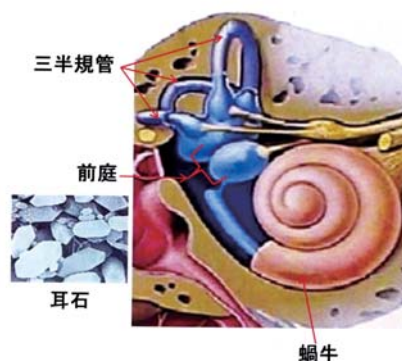
●図3



a : 左急性中耳炎の鼓膜。
赤く腫れ上がっている。

b : 右滲出性中耳炎の鼓膜。軽く陥凹した鼓膜を透して中耳腔内に貯留する茶褐色の液体が見える。

●図4：内耳、前庭内の耳石。





病院で働く人々

第11回 hospital specialist

「中央材料室」の松岡恵理子です。



日本歯科大学生命歯学部には医科病院(内科・外科・耳鼻咽喉科)新潟病院(歯科)の2つの病院が併設されています。中央材料室ではその双方から看護師、看護助手、歯科衛生士、第2種滅菌技士などが配属され共有の部署として業務を行っています。診療・検査などに来院されている皆様には耳馴染みがなく、一般の方からは目の届きにくい部署ですが病院内の外来、手術室、病棟を対象に院内で使用する医療器材を確実に、安全に供給するという大変重要な業務を担っています。業務内容を幾つかQ&Aでお答えしましょう。



Q1：中央材料室って聞きなれない部署ですが、何をしている所ですか？

A1：基本的に患者さんに使用された道具(器材・器械)の洗浄・滅菌を行っています。血液などの付いた鋼製器材は、専用の機械に入れ汚れを落としその後、人の手による点検を行います。点検後は包装材に入れ滅菌をし、患者さんが安心して診療を受けられるよう安全な器材を各部署へ供給しています。

Q2：患者さんに提供されている道具は、清潔なものですか？

A2：使用された器材は医療用の「洗浄+熱水消毒」の工程が自動的に行われる機械にかけその後、金属製の器材は135℃の高圧蒸気で微生物を死滅させます。また熱に弱い器材は20～23時間かけて医療用エチレンオキサイドガス滅菌を行います。「滅菌」とは消毒とは異なり専用の機械を用いて医療器材の表面についたあらゆる種類の微生物を完全に死滅させることを言います。つまり、中央材料室は病院内の感染防止のために重要な役割を果たしています。

Q3：病原菌や微生物の目に見えないものを、どのように滅菌されたか確認していますか？

A3：中央材料室では日々以下の3つの方法で滅菌確認を行っています。

- ①滅菌包装材の中に、滅菌にかけると色が変わるカードを入れ、色の変化で滅菌を確認します。
- ②滅菌の機械を稼働する際に、テスト用の菌が入ったカプセル容器と一緒に滅菌し、滅菌完了後に培養を行い、陰性であることを確認しています。
- ③各種機械の稼働記録を取っています。運転中の機械の各種数値を記録し、機械が正常に動いていることをモニタリングしています。

中央材料室は安全な滅菌器具・医療材料の品質保証を責任を持って行い、患者様が安心して医療サービスを受けられるよう、医療および看護を側面から支えています。



クスリのコダマ 第7回育児まるごと応援フェア

●小児歯科 科長
障害児・者歯科センター センター長

島田 路征



本院の地域歯科保健医療支援活動の一環として6月12日曜日に新潟地域産業振興センターにて開催された「クスリのコダマ第7回育児まるごと応援フェア」に参加しました。このイベントへの参加は6回目で、「むし歯なりやすさチェック」と題したブースを設置し、RDテストという簡便にむし歯原因菌の数が調べられる検査を行いました。本院の歯科医師とボランティア参加の学生さんの活躍もあって、

昨年と同様に当ブースは大変好評で赤ちゃんから大人まで大勢の親子連れが検査を受けていらっしゃいました。さすがは全国でも指折りの子どものむし歯が少ない新潟県だけあって、親御さんのお口に対する関心の高さが伺えるイベントでした。来年度も同様に開催される予定です。当大学も参加予定です。ご興味があれば皆さんお誘いあわせの上、是非ご参加下さい。



新潟
病院

臨床研修歯科医師の



第18回 歯の根の治療について

総合診療科3

●片山 愛奈 ●武井 徹

みなさん、「歯の根の治療」と言われて「何のことだろう?」と思ったことはありませんか?
歯には口の中から見える「歯冠」と呼ばれる頭の部分と、骨と歯ぐきに埋まっている「歯根」という根の部分があります。この「歯根」は筒状になっていて、その中に「歯髄」と呼ばれる神経が入っています。

この「歯髄」という神経まで病気が広がってしまった場合に、ダメになってしまった神経を取り、神経が入っていた筒をきれいにするのがいわゆる「根の治療」です。

根の治療が必要になる病気には主に虫歯と歯周病があります。

根の治療の効果として、痛みや違和感がなくなるということがあります。ダメになってしまった神経を取り、かわりの材料をしっかり入れるので、健康な歯と同じように使うことができます。また、虫歯などによって歯冠の大部分がなくなってしまった歯でも、根の治療をすれば土台が建てられることが多いので、歯を抜くことが少なくなります。

このように根の治療はいいことが多いです。しかし、神経を抜くことで歯が割れやすくなってしまいます。

実際の根の治療は、基本的に1回では終わりません。これは、根の中を器具で太くして薬を入れやすくするためと、管の中を殺菌してきれいにするのに時間がかかるためです。

今回は根の治療について簡単に説明しましたが、大切なのは神経まで病気が進行しないように予防することだと思います。それには毎日の歯磨きと定期的な歯科検診がとても大切です。「歯磨きによる虫歯や歯周病の予防」と「定期的な歯科の受診による病気の早期発見・早期治療」を行うことで、根の治療が必要になったり、歯を抜くことはかなり少なくなります。

私たちは毎日の歯磨きと定期的な歯科の受診をお勧めいたします。

編集
後記

■記録的な暑さの続いた今年、雨も局所的に強く降るという変則技を使い各地に甚大な影響をもたらしたようです。また、気温が暑いと空調の使用が増えることによる体調の管理も難しいようで、この影響は暑さが一段落した秋でも油断できません。

こんな話ばかりで暗い気持ちになりがちですが、四季のある日本という国に生きて季節の変化を感じ日々生活できることを感謝したいです。暑い日には早く涼しくなって秋のさんまや果物が食べ、山に優麗な紅葉を見に行きたい。寒い日には暖かくなったら桜の木下で花見酒を。そんな気持ちになれるこの国がすきです。(佐)



日本歯科大学新潟病院・医科病院

アイヴィ通信



発行日/平成25年10月1日 発行人/山口 晃 五十嵐文雄
〒951-8580 新潟県新潟市中央区浜浦町1-8
TEL 025-267-1500(代) FAX 025-267-1546(支援室直通)